認定NPO法人
おてらおやつクラブ

『てばなす』は認定NPO法人おてらおやつクラブが
発行するフリーマガジンです。

てばなす

Hand in hand and Heart to Heart

たすけての声に
こたえ続けるために

第7号
2023.7



てばなした おそなえの先に



WRITTEN BY
認定NPO法人おてらおやつクラブ代表理事　松島靖朗

「てばなす」ってどういうこと？

みなさん、てばなしていますか？

「てばなす」という行為は、お釈迦さまが説かれた慈悲の実践のひとつです。

不安なことが多い現代社会。なんだか自分の価値や可能性を目減りさせていくように感じるからか、なかなか手放すことができません。自分がしたことを手放す、見返りを求めない。わかっちゃいるけど、見返りがほしい私がいます。

「てばなす」ことができない私は「ためる」「たくわえる」「まもる」「かくす」ことで視界不良になり、不安な毎日を過ごしています。

ものやお金などに関して言えば、誰かが手放したものを受け取る人がいて、はじめて「てばなす」という行為は成立します。手放す、受け取る、そしてまた、手放す、受け取る。この循環が広がっていくことで、ものだけでなく人々の思いや願いを巡らせる大きな力、流れとなるのです。

「おそなえ・おさがり・おすそわけ」

「おそなえ・おさがり・おすそわけ」というお寺の習慣を、「子どもの貧困」とよばれる社会課題の解決の助けにできないか、そんなアイデアから始まったのが「おてらおやつクラブ」の活動です。始めるきっかけとなった大阪の母子餓死事件から10年が経ちました。この飽食・フードロスの時代に、身近なところで餓死事件が起こるなんて。社会に大きな問いを投げかけた出来事でした。

当初は個人的な活動でした。せっかく坊さんになったんだから、何かいいことしなければならない。人の目・社会の目を気にした坊さんの卑しさや謎の義務感が動機でした。

ていませんが、つなぎ先がない状況で、何もしないわけにもいきません。SDGsといわれなくとも、私たちの活動は「誰ひとりとりのこさない」活動だよね、と事務局一同、覚悟を決めて、即日連日で全国各地へ直接「おすそわけ」する直接支援活動にかじをきりました。

現場の声は深刻な生活状況を教えてくれる一方で、「たすけて」の声をあげてくださったお母さん、お父さん、そして子どもたちの勇敢な姿を私たちに知らせてくれます。弱さを見せることができるのは、とても強いことではないでしょうか。なんとかお応えしていきたい。

2023年6月末。直接支援活動を通じて「おすそわけ」をお届けした世帯は9000世帯に。様々な事情で複数回お届けしつつ、必要な助けへと「はしわたし」を試みている世帯も多くあります。

1800寺院のネットワークがありながら、直接「おすそわけ」をお送りできるのはNPO法人の事務局がある奈良のお寺からのみ。ひとり親家庭が勇気を振り絞って「たすけて」の声とともに個人情報を伝えてくれたからこそ、「おやつ」を届けることができます。

事務局がお預かりした個人情報を他のお寺へ共有せず、匿名で全国のお寺から最寄りの家庭へ「おすそわけ」する仕組みができました。コードネームはもちろん「tebanasu（てばなす）」。コロナ禍の活動を支えてくれるシステムとなりました。

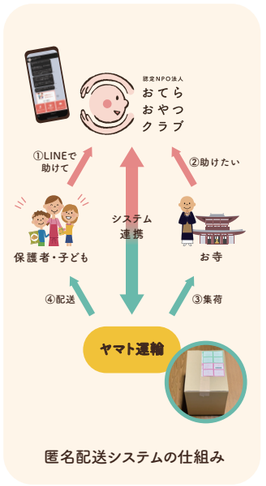
スマホからいつでも「たすけて」の声を

あなたの「てばなす」が社会を変える

個人情報に配慮するという導入理由でしたが、「近所のあのひとが」ではなく、「どこかの誰かが」見守ってくれているのがちょうどいい、とのお声が多数。どうやら匿名での「おすそわけ」が生み出す距離感が求められているようでした。

私たちの活動にご寄付やご寄贈で応援してくださる中には、タイガーマスクやあしながおじさんのように名前を明かさず、物心両面からお力添えいただく方がたくさんおられます。

匿名での「おすそわけ」は、自分がこれをやった！を思いがけず、手放すことができるのです。あれもこれも自分がやった、と自己中心的な生き方をしている私にとって何よりも必要な仕組みでした。



匿名配送システムの仕組み

一足飛びに顔が見える関係で助け合えたらよいですが、そんな簡単にはいかないのがこの世界。まずは匿名でつながり、いつの日か、ご縁がととのい、顔が見える日が来る。いや来なくても、どこかで誰かが助けてくれる、どこかの誰かを助けられる。匿名での支え合いが当たり前になればよいのかもしれません。

たよってうれしい、たよられてうれしい。たくさんのうれしいが生まれる社会になりますように。「てばなす」をご一緒しましょう。

「まだまだ全然たりません」

いいことをしている自分を認めてもらいたいと訪れた支援の現場で、投げかけられた言葉が活動を全国に広げていく決心と後押しをしてくれました。

全国に「おすそわけ」の輪が広がってきています。ほとけさまにお供えされたお菓子などの食べ物を「おやつ」として子どもたちに届ける。なんとなく、お寺の原風景として思い浮かべる方もおられるのでは。でも現代社会はこのような習慣との接点がどんどん見えにくく、体験しにくくなっているのも実際のところです。

2018年、グッドデザイン大賞（内閣総理大臣賞）を受賞しました。デザインとして目に見える形がない活動、NPO法人（しかもお坊さんが運営している！）の大賞受賞は、平成最後のグッドデザイン賞として象徴的に取り上げていただきました。

大きな期待を背負っていよいよこれからという矢先、コロナ禍の困難と立ち向かうことになります。



グッドデザイン大賞受賞時の様子（2018年）

コロナ禍のチャレンジ

緊急事態宣言のころ、北は北海道、南は沖縄まで文字通り全国から「たすけて」の声とともに「おやつ」希望のメッセージが鳴り響きました。一体何が起こっているの？どうやら地元の支援活動や行政窓口が動けなくなっているようでした。

地域のお寺と地域の相談窓口や住民の関心をつなげていくのが「おやつ」の活動。その前提は今でも変わ

おてらおやつクラブのはじまり

2013年5月24日、大阪市北区のマンションの一室で母子が餓死状態で発見される痛ましい事件が起きたことをご存知でしょうか？部屋には、お母さんの書いた1枚の手紙が残されていました。

「最後におなかいっぱい食べさせてあげたかった、ごめんね」。

部屋には食べ物はなく、食塩があっただけ。預金口座の残金は十数円で、電気やガスも止められていました。

おてらおやつクラブはこの事件をきっかけに、全国のお寺に集まる「おそなえ」を仏さまの「おさがり」として全国の子ども支援団体やひとり親家庭へ「おすそわけ」する活動を始めました。

この「おそなえ、おさがり、おすそわけ」の活動は「既存の組織・人・もの・習慣をつなぎ直すだけで機能する仕組みの美しさ」が評価され、2018年度グッドデザイン大賞（内閣総理大臣賞）を受賞しました。

認定NPO法人
おてらおやつクラブ



GOOD DESIGN AWARD 2018
グッドデザイン大賞

ひとり親家庭が抱えるさまざまな困りごと

2種類のおすそわけ

おてらおやつクラブでは、2種類のおすそわけを届けています。

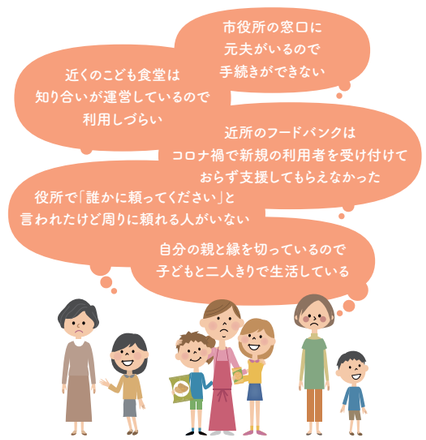
①子ども支援団体に向けた「おすそわけ」（後方支援）

子どもやひとり親家庭を支援している地域の団体へ届ける「後方支援」。支援団体の活動の応援団として、お寺からの「おすそわけ」でサポートする活動です。お寺を身近に感じてもらうこと、地域から無くならないコミュニティを目指します。

②ひとり親家庭に向けた「おすそわけ」（直接支援）

さまざまな事情で支援につながることができないひとり親家庭に匿名でおすそわけを送る「直接支援」。

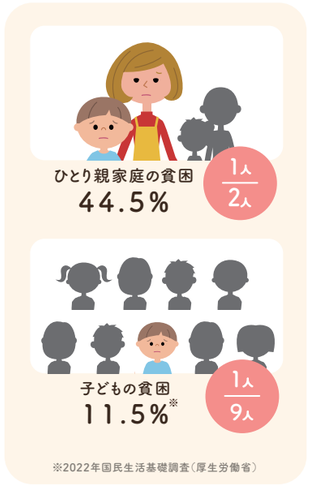
「助けてと声をあげれば、助けてくれる人がいるんだ」と、実感してもらい、「明日も頑張ろう」という活力や「近くの支援につながってみようかな」と思うきっかけづくりを目指します。



調査を通して見えた生活状況

2023年7月4日、厚生労働省から最新の子どもの貧困率が公表されました。国民生活基礎調査の結果を元に、3年に一度更新される貧困率。前回結果では、13．5%で7人に1人が貧困状態に、特にひとり親家庭に限れば48．1%と約半数の家庭が貧困状態にあると言われていました。

今回の結果では子どもの貧困率が11．5%、ひとり親家庭の貧困率が44．5%と、どちらも数値が減り、改善されました。



※2022年国民生活基礎調査（厚生労働省）

しかし、事務局内では「次の貧困率は悪化するのではないか」と予測していたので、今回の結果は意外なものでした。調査と同時期の2022年、事務局にはたくさんのひとり親家庭から「たすけて」の声が寄せられていたためです。

事務局に寄せられた家庭の声を一部ご紹介します。おすそわけ受け取り後の感想の他に、申し込み時に「不安なこと」や「申し込んだ理由」をお聞きしています。

通常、家庭からおすそわけの申し込みがあった際は、前回の受取日を確認し、期間が空いている方から順番にお届けしてきました。しかし2022年7月、夏休み期間であることやコロナ第7波の影響で、おすそわけを受け取った直後の家庭などから申し込みが殺到しました。このまま無条件に送り続けていては事務局の支援体制が逼迫してしまうと判断し、体制が整うまでおすそわけ申し込みの受付を停止せざるを得なくなりました。

事務局内では活動開始以来初めて地元銀行から借入（つなぎ融資）を行い、財政基盤を調整しました。また、おすそわけは初回受取の方を優先しつつ、2回目以降の方には生活状況をお聞きし、より緊急性の高い家庭から送るよう支援体制を見直しました。ただこの方法では、支援を受けられず孤立感をより深刻にしてしまった方がいることは想像に難くありません。

「不安なこと」「申し込んだ理由」

生活のために、仕事を増やそうと仕事仕事と追われて、なかなか思うように食事を満足に出来ない状況になってしまい、光熱費が去年の倍に跳ね上がり、とても苦しくなってしまいました。このまま、光熱費や食料費がどんどん値上がりしていったら、もう生活出来ないと感じています。いろいろな面で限界がきている感じがします。（神奈川県のお母さん）

食品の値上げ、光熱費の値上げで家計に負担が結構ある中、子どもの食べる量も増えていきどんどん食費がかかると思うので、この先赤字にならないか不安です。けどお腹いっぱい満足に食べさせてあげたい。贅沢はしなくていいけど人並みに出来れば我慢させないようにしたい。（福岡県のお母さん）

お米がからっぽ！夏休みの食品が買えない！高くて食材買えない！（千葉県のお母さん）

収入は減るが何もかも高くなり支出は増える一方で満足に食べていけなく、支払いも滞り、病院にも行けず、どうしたら良いものか困っています。（北海道のお母さん）

給付金もなくなり、フードバントリーも以前より申し込みがあるようでもらえない時があり、物価高のせいか、給料日まであと数円の時もある。生活保護をいただいているが、働いた分引かれるので、家賃分4万円と1万円が残るくらいの支給額。給料10万弱と手当が入るがとてもじゃないがきついのが現状です。（岩手県のお母さん）

収入が少なく、満足に食べ物を買うことができません。子どもから毎日毎日「お腹がすいた」「たったこれだけ？」と言われて辛いです。（東京都のお母さん）

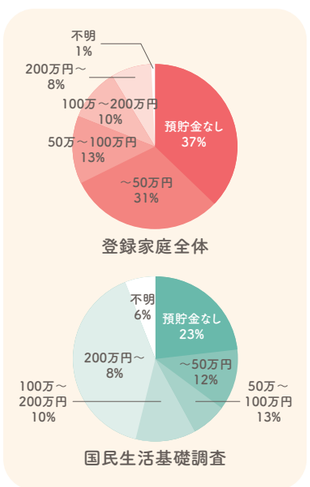


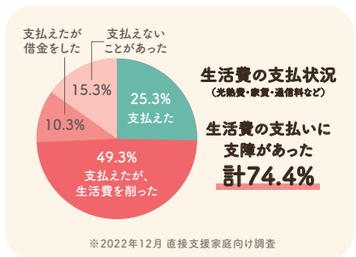
ひとり親家庭の中でもより困窮している層がおてらおやつクラブにつながっているのではないかと推測されます。貯蓄がない中で真っ先に切り詰めるのは食費だという家庭も少なくありません。

すべての子どもが生まれた場所を問わず笑顔で暮らせるよう、私たちはこれからも全国の「たすけて」と「たすけたい」をつなぐプラットフォームとなり、「たよってうれしい、たよられてうれしい。」社会の創出を目指していきます。

おてらおやつクラブは2022年12月、おすそわけを受け取った全国2553世帯のひとり親家庭を対象に、生活状況の調査を実施しました。調査の結果、生活費の支払いに支障のあった家庭は全体の7割強に上ることが明らかになりました。

今回、厚生労働省が公表したひとり親家庭の貯蓄に関する調査はおてらおやつクラブでも実施しています。厚生労働省の結果と比較してみると、おてらおやつクラブ登録世帯は「預貯金なし」の割合が多いことがわかります。





※2022年12月 直接支援家庭向け調査

おてらおやつクラブの支援の仕組み

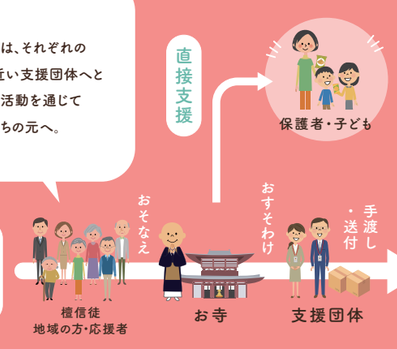
後方支援

各お寺で預かった「おそなえ」は、それぞれのお寺のペースと量でできるだけ近い支援団体へと「おすそわけ」され、各団体の活動を通じて困りごとを抱える子どもたちの元へ。

直接支援

活動の周知に伴って支援要請の数が増えたことにより、後方支援だけでは支えきれないケースも増加。そこで、匿名配送の仕組みを新たにつくり、全国のお寺からひとり親家庭へと直接「おすそわけ」を届ける支援形態を構築した。







おすそわけが届くまで

おてらおやつクラブが全国にお送りしている「おすそわけ」。箱の中にはどんなものが入っているのか、どのように詰めているのか、「おすそわけ」の裏側をご紹介します。



おすそわけの中身(イメージ)

1 企業からの寄贈品



「おすそわけ」には檀家さんや個人の方からのお供えだけでなく、活動に賛同する企業からの寄贈品が入っていることもあります。お菓子や飲料、日用品など、お寺のお供えとはまた違うさまざまな寄贈品が寄せられています。

2 絵手紙



「おすそわけ」には絵手紙を同封し、「支援したい」と願う方々の温かい気持ちもお伝えしています。手描きの絵手紙には、描いた人の温もりがあふれています。お子さんやお父さん・お母さんにとっては、「玄関に飾っています」「手書きの絵手紙が嬉しかったです」と誰かとのつながりを感じる大切なきっかけになりとても喜ばれます。絵手紙をご寄贈いただける方は、ぜひ事務局までお知らせください。

3 おすそわけの梱包



お寺に寄せられたお供えや寄贈品の賞味期限を確認し、箱に詰めていきます。現在、北海道から四国まで全国10ヶ寺でボランティアを募集し「発送会」を実施しています。発送会の参加は当団体Webサイトから申し込むことができます。

4 発送



梱包したおすそわけはヤマト運輸によって全国の支援団体やご家庭の元へ届けられます。
「匿名配送システム」を活用し、発送元のお寺と発送先の家庭の個人情報のやりとりが不要な形で送ることが可能になりました。

発送するお寺さんに
気をつけていること、
おすそわけに入れる食品の
選び方を聞いてみました。

8月はお盆の月でした。
檀信徒よりいただいたもの、法会の
おさがりなどより、ご家庭で喜んで
いただけそうなものをチョイスいたしました。
（大阪府高野山真言宗）

今回5袋ラーメンを18セットお送りしました。
住職と相談して、出来るだけ添加物の
ないものを選びました。
食べていただけるとありがたいです。
（愛知県曹洞宗）

お供え下さった方が
「無洗米だと、子ども食堂の方々の洗う手間が
少しでも省けるかと思って選びました」
「ポテチは皆好きですよね～何か役に立ちたいけど、
どのお菓子かわからないのでポテチにしています」
と仰っていました。
（大阪府 浄土宗）

いろいろな声

支援者からの声



明日は我が身。みんなが安心して、笑顔でいられる、助け合いの社会になりますように。
（寄付者）

未来ある子供たちにお腹いっぱい食べさせてあげたいです。応援しています！
（寄付者）

名前は知っていましたが、詳しい活動内容は初めて知りました。うちも支援がギリギリ必要か、必要ないかくらいの経済状況ですが、まずは出来る所から小さな一歩でも、という気持ちで応援します。
（寄付者）

支援団体からの声



活動の中で、辛くなる事や、特に財源が厳しくなって、どうにもできない時。ボランティアメンバーが体調不良で1人での活動が続く時。気持ちが下向きになっているとふっとおてらおやつクラブさんが届いて気持ちをまた前向きにがんばらなくちゃ！と元気な気持ちに戻してくれています。とてもありがたいです。
（北海道　ひとり親家庭支援団体）

たくさんのお菓子とお米を、ちょうど子どもやお母さんたちのいる前でお披露目することができました。皆とても喜んでいました。これはお供えのおさがりなんだよと伝えると、なんで駄菓子が入ってるんだろうと言う子がいて、もしや子どもにお供えしたのかもしれないねぇとある子が言うと、すこししんみりしていました。ありがたくいただこうねと声をかけると皆うなずいていました。
（大阪府　こども食堂）

フェリシモおてらぶ様からのおそわけの品、受け取りました。弊社へ相談にくる生活困窮者の方は一人親家庭や小さなお子様がいる家庭、お仕事子育て家事と毎日時間に追われて生活している人が沢山います。フェリシモ様ができるだけ手間無く食べる事ができる物を選んで送ってくださったそうで、そのお気遣いがとても嬉しく思います。地域の皆様の明日の元気につながりますよう、おすそわけの品をしっかり管理しお配りさせていただきます。インド西ベンガル州のフェリシモの森をイメージした段ボールのデザインも凄く素敵でした。心温まるおすそわけ本当にありがとうございました。
（福岡県　社会福祉協議会）

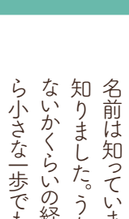




家庭からの声







今月のガス代の高さをみて、しばらくおやつを買わないという方向で考えていましたが、送って下さったおやつクラブの箱を開けて、まず絵手紙の言葉に、ほろっとしました。子どもにとってはお家に帰っておやつを食べる時間は、ほっとひと息つけるものですよね。おやつがあることの大切さを改めて感じさせられました。

そして、日用品や白米などを手にした時、私はまだ大丈夫だからと思い込み、ひとりで頑張ろうとしていたことに気づかされました。何を節約すれば、生活が安定するんだろう？そのことばかりに囚われすぎていて、子どもたちへの小言が増えていたと言うのに。

おやつぐらい我慢すれば良いと言う考えではなく、こうしてSOSを出したら答えて下さる方々がいることに心から感謝致します。
（石川県のお母さん）



心が疲弊して、孤独感と不安に押しつぶされていました。そんな時に支援していただいて気持ちが少し軽くなりました。ただの物品ですが、それ以上に気持ちを頂いたようで、あたたかい気持ちになりました。経済的な問題で利用しましたが、精神的に支援されるのですね。救われました。ありがとうございました。
（福島県のお母さん）

おやつを申し込む時に子ども達の性別や生年月日など個人情報を書かないと申し込めなかったので、正直に言ってひとり親としては不安になりましたが（個人情報の悪用）、届いた箱を娘達と開けてびっくり。娘達が日頃欲しがってたシャンプーやリンス、流行りのヘアオイルやマスクガードなどひとり親家庭にとっては高価な日用品&年頃の娘達が欲しがってた物が入っており感動しました。その為の個人情報だったのか…と至極納得しました。

一緒に入っていた、季節の絵や紙細工の着物も華やかで壁に貼らせて頂きました。部屋が明るくなり気持ちも明るくなりました。随所に心遣いを感じられとても元気が出ました。本当にありがとうございました。
（奈良県のお父さん）



お寺さまからの声



年度の変わり目、うれしくないっていう声を聞きました。色々と物入りだけど、満足に準備してあげられないから、だそうです。お子さんたちの成長は、本当なら喜ばしいことのはずなのに、先も見えず、素直に喜べない親御さんたちの置かれた状況に、私もモヤモヤとしたりします。一方で、仏教会のおすそわけも決して量が一気に増えるわけではありませんが、支援してくださる寺院や一般の方、事業主の方々が少しずつ増えてきています。饅頭を和菓子屋さんが毎回、たくさん持ってきてくれたり、今回は養蜂店さんから飴だったり、檀家さんが畑の作物を採ってきてくれたり。気にかけてくれる人たちが増えてきました。社会や世間から置き去りにしたくない、というこの方々の気持ちを、託させていただきたいと思います。どうぞ宜しくお願いします。
（香川県　真宗大谷派）



昨日はおじゃましました。お子さんたちにお渡しした時の様子をおきかせいただき、とても嬉しかったです。また、以前いただいたメッセージを、最近毎月お手伝いに来て下さっている方々にお伝えしました。みなさん思わず涙ぐんで「喜んでもらえてよかった」「これがほんとうに、『たよってうれしい、たよられてうれしい。』なんですね」と感想を伝え合い、「また送れるように集まろうね」と話していたところです。寒さの本番は立春前のこの時期です。どうぞお身体大切にお過ごしくださいませ。
（愛知県　浄土真宗本願寺派）





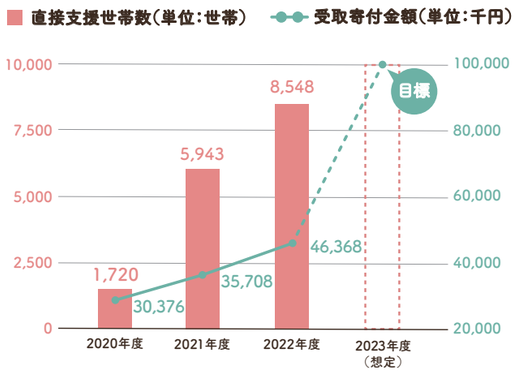
檀信徒の方がお米を突然持ってこられ、「子供たちにお菓子とかお米配ってんでしょ、住職。田舎から沢山届いたから子供たちにあげてください。よろしく」と言って帰られました。年4回の寺報なんかあまり見てないのかもと思っていましたが、うちの寺はありがたくも、檀信徒の方の多くが読んでいて、おやつクラブのことを年に2回は載せているので、心ある方はこちらのメッセージをしっかりと受け取ってくださっているのだなぁと思いました。
（神奈川県　天台宗）



切迫する財務状況

多くの方々にお力添えをいただき、2022年度の寄付金は総額で4636万8517円（前年度比129.9%）となりました。個人からのご寄付や、株式会社フェリシモ様をはじめとする企業様からのご寄付が含まれます。

2022年夏に起きた〝コロナ第7波〟の影響力はすさまじく、私たちの想定をはるかに超える支援要請が寄せられることとなり、支援のあり方そのものを見直さざるをえない状況に追い込まれました。「たすけて」の声が急増する一方で、活動資金の不足により、支援要請に十分に応えられない場面が増えてきています。



私たちは、天理市・田原本町とのふるさと納税の仕組みを活用した「ガバメントクラウドファンディング」、賛同寺院様からの賛助会費や設置いただいた募金箱、SMBCグループプライジング基金をはじめとする助成団体からの助成金など、資金調達に奔走しました。

それでも2022年度中盤にはキャッシュフローが悪化する事態に陥り、地元奈良の南都銀行様のお力添えにより初の借入（つなぎ融資）を行うなど、財務状況が切迫する事態も経験しました。活動のインパクトを落とさないためにできることを考え続け、多くの方々にお力添えをいただいた1年でした。

2022年度サポーター企業、助成金（一部ご紹介）

寄付

大阪ガス株式会社、株式会社バリューブックス、
株式会社フェリシモ、ブックオフコーポレーション株式会社、
明治安田生命相互会社 奈良支社、ヤフー株式会社

助成金

SMBCグループプライジング基金、
公益財団法人浄土宗ともいき財団、
一般財団法人清水育英会様および社会福祉法人中央共同募金会（共同助成）、
一般財団法人中部圏地域創造ファンド、日蓮宗あんのん基金、
みてね基金

（順不同・敬称略）

おてらおやつクラブからのお願い

急増する支援家庭に「おすそわけ」を届けるために、匿名配送システムの改善を続けています。

しかし、困りごとを抱えるひとり親家庭からの支援要請は引き続き増加しており、運営は資金面で厳しさを増しています。

おてらおやつクラブでは現在、マンスリーサポーターを募集中です。マンスリーサポーターになって、全国各地でおすそわけを待っている子どもたちに届けるために、お力添えをよろしくお願いいたします。

たとえば月額千円のご寄付で、地縁や血縁を頼りにくいひとり親家庭の子どもたちに毎月1箱のおすそわけを届けることができます。

マンスリーサポーターについて詳しくはこちら

現金書留でのご寄付もできます。
宛先
奈良県磯城郡田原本町八尾40
認定NPO法人おてらおやつクラブ

数字で見るおてらおやつクラブ

賛同寺院数	1,859寺院	事務局への寄贈物資量	31.058トン
	103.5% 63寺院増		56.9%
おすそわけ発送数	13,524件	講演数	28件
	92.0% 1,177件増		133.3% 7件増
支援団体数	687団体	ボランティア年間参加者数（のべ）	473人
	121.2% 120団体増		215.0% 253人増
直接支援世帯数	8,548世帯	支援を受ける月間子ども数（のべ）	26,315人
	143.8% 2,605世帯増		（参考値）
直接支援の年間発送数	7,567個	寄付金額	46,368,517円
	74.4% 2,605個増		129.9% 10,660,039円増
メディア掲載数	68件		
	121.4% 12件増		

※2023度より数値の算出方法を一部変更しました。

活動計算書サマリー

科目		2021年度	2022年度	前年度比	
Ⅰ経常収益					
1. 受取会費	賛助会員受取会費	1,538,000	4,801,000	312.2%	128名の会員の皆さまに支えていただきました。
2. 受取寄附金	受取寄附金	35,708,478	46,368,517	129.9%	継続寄付者は420名（前年度末＋83）となりました。ご寺院さまの募金箱や連携企業さまからのご寄付など、多くの皆さまからの支えに感謝しています。
3. 受取助成金	受取民間助成金	12,159,942	6,541,743	53.8%	
	受取国庫補助金	11,507,508	9,218,767	80.1%	昨年度に引き続き、みてね基金さまに応援いただき、主に物流システム開発費や増加する支援業務に耐えうる職員の人件費として活用いたしました。
5. 事業収益	事業収益	1,456,309	5,293,906	363.5%	おてらおやつ劇場の上演や講演など、対面での事業が回復傾向にあります。
その他収益		112	65,126	58148.2%	
	経常収益計	62,370,349	72,289,059	115.9%	

科目		2021年度	2022年度	前年度比	
Ⅱ経常費用					
1. 事業費					
(1)人件費	人件費計	10,915,605	15,502,477	142.0%	支援ニーズの高まりに迅速に対応すべく、3名の有給職員を採用しました。 ＊今年度より福利厚生費はその他経費に計上しています。
(2)その他経費	業務委託費、謝金	19,457,817	20,302,509	104.3%	・物流システムのアップデートのためのシステム開発委託 ・おてらおやつクラブの仕組みや子どもの貧困をわかりやすく伝えるデザイン委託 ・講演や劇場上演などへの謝金
	旅費交通費	1,157,464	3,061,611	264.5%	リモート中心の活動ですが、昨年末以降はコロナ前に実施していた毎月の対面MTGを再開。事務局全体のコミュニケーションと業務理解が深まり、活動を円滑に進めることにつながっています。
	荷造運賃	14,043,369	11,170,080	79.5%	
	地代家賃	360,000	1,630,000	452.8%	支援家庭が急増する中で、支援団体への持込みや寺院での手渡し、直接支援家庭のリピーターの制限などの施策により、支援規模は保ちながら配送費を抑えました。
	その他	10,536,473	9,327,931	88.5%	
	事業費計	56,067,916	59,364,608	105.9%	寄贈物資の受取りを全国に分散するに伴い、各地域で物資の管理拠点となっていただくご寺院様に地代家賃をお支払いしています。
2. 管理費					
(1)人件費	人件費計	5,227,971	5,963,260	114.1%	
(2)その他経費	業務委託費	1,651,729	1,929,482	116.8%	会計業務や寄付関連業務を外部委託しています。
	諸会費	13,200	74,750	566.3%	
	支払手数料	1,862,028	1,987,213	106.7%	昨年度より「新公益連盟」に加盟し、他団体と情報交換や、様々な企業・行政との協業を模索しています。
	その他	3,146,342	2,348,591		
	管理費計	12,597,307	12,303,296	97.7%	・決済代行業者への手数料 ・外部専門家との顧問契約 （コンプライアンスやガバナンス向上）
経常費用計		68,665,223	71,667,904	104.4%	
	当期経常増減額	-6,294,874	621,155	-9.9%	直接支援家庭の急増により2021年度は大きな赤字決算となり、2022度中盤には初の借入（つなぎ融資）を行うなど、財務状況が切迫する事態もありました。事務局員が一丸となり支出を抑える工夫をこらすことで、支援規模を拡大しながら、収支のバランスを保つことができました。
	当期正味財産増減額	-6,294,874	621,155	-9.9%	
	前期繰越正味財産額	20,405,700	14,092,127	69.1%	
	次期繰越正味財産額	14,092,127	14,713,282	104.4%	

おそなえ・ご寄付のお願い

あなたも「おてらおやつクラブ」の活動に参加しませんか？

おそなえ

おやつ・食品をおそなえする
寄贈品を事前に把握するため、
送付前に 右記フォームから
事務局にご連絡ください。

寄付

継続寄付をする
毎月1,000円で1年間に12世帯の
ひとり親家庭へおすそわけをお届けできます。

一回でまとめて寄付する
クレジットまたは銀行振込で寄付できます。

賛助会員（寺院向け）

賛助会員として活動に参加する
年会費 1口 10,000円

おてらおやつクラブへのご寄付・賛助会費は
税制優遇の対象になります



各種詳細・お申し込みはホームページにて
otera-oyatsu.club

裏表紙写真「おてらおやつクラブはあなたのそばに」
てばなす第7号　2023年7月10日　第一版発行
発行人：松島靖朗　編集人：深堀麻菜香　協力：デザインで株式会社
発行所：認定NPO法人 おてらおやつクラブ
〒636-0311 奈良県磯城郡田原本町八尾40
info@otera-oyatsu.club